



目 次

1. 年末年始のサービス業務のお知らせ	1
2. ジョブクラスと制限値の変更 (MSP)	2
3. 要審査ジョブの出力方式の変更 (MSP)	3
4. システム記憶 (SSU) の利用法 (MSP)	4
5. スーパーコンピュータのキュー制限値の変更 (UXP)	6
6. 学術情報ネットワークによるサービスの一時停止のお知らせ	6
7. 「オンライン・データベース利用ガイド (第13版)」 発行のお知らせ	7

1. 年末年始のサービス業務のお知らせ

このことについて、次のとおり計算サービス等を一時停止します。

1) 計算サービスの一時停止

平成5年12月28日(火)～平成6年1月4日(火)

なお、12月28日(火)午前8時で計算サービスを打ち切ります。また、1月5日(水)午前9時から通常どおり計算サービスを開始します。

2) プログラム相談の一時停止

平成5年12月28日(火)～平成6年1月4日(火)

なお、1月5日(水)から通常どおりプログラム相談を開始します。

(システム運用掛 内線2517)

2. ジョブクラスと制限値の変更 (MSP)

平成6年1月5日(水)からM1800とVP2600のジョブクラスと制限値を下記のように変更します。変更点は以下の通りです。

- ・ジョブクラス : M1800のジョブクラスC(ジョブクラスFに包含)、及びジョブクラスGの廃止。
- ・リージョン : M1800のジョブクラスFでSSU(システム記憶)を100MBまで利用可能とする。
VP2600のジョブクラスVでSSUの制限値を400MBから500MBに拡張する。
- ・CPU時間 : M1800, VP2600共、ジョブクラスAの中に短時間ジョブ用のCPU時間を設ける。JOB文でTIMEパラメタを下記のように指定すると優先的に処理を行う。

//ジョブ名 JOB CLASS=A, TIME=1

従来、汎用コンピュータ(M1800)のSSUは、ジョブが競合してSSU領域が不足すると後続ジョブが異常終了するため、単一制御の必要があり独立したジョブクラスCを設定していました。今回、OSのレベルアップにより多重制御が可能となりましたので他の制限値が同じジョブクラスFに包含して廃止します。ジョブクラスCを指定していたJOB文はジョブクラスFに変更をお願いします。

また、ジョブクラスGはバッチ処理によるグラフィックスのためのクラスでしたが、現在、グラフィックジョブはTSS処理となっていますので廃止します。

M1800 MSP

(下線は省略値)

適用ジョブ		ジョブクラス	CPU時間	ファイルアクセス	最大ジョブサイズ(SSU)	端末接続	ラインプリンタ		XYプロッタ		図形文字パターン数
							出力枚数	出力行数	紙長	使用時間	
バッチジョブ	標準ジョブ	A	分	万回	MB	分	枚	行	m	分	パターン
			<u>10</u>								
	B	180	50								
	M T ジョブ	OPEN STATION	N	10	20	6	-	600	36,000	10	60
	CLOSED STATION	L	10	20							
	大型ジョブ	F	10	50	200 (100)						
	<u>180</u>										
TSSジョブ	標準		10	20	6	240					
	大型										

適用ジョブ		ジョブクラス	CPU時間	ファイアアクセス	最大リージョンサイズ(SSU)	ラインプリンタ		XYプロッタ		図形文字パターン数				
						出力枚数	出力行数	紙長	使用時間					
バッチジョブ	大型ジョブ	A	分	万回	MB	枚	行	m	分	パターン				
			10								20	50		
		B	180	50	600						36,000	10	60	100,000
		V	10	50	300 (500)									
180														

注意事項)

- ・ リージョンサイズが6MBを超えるジョブは大型ジョブとなります。
TSSの場合はLOGON時にSIZEパラメタを指定してください。
例) LOGON TSS G79999A S(50)
- ・ ジョブクラスAのCPU時間の省略値は10分です。JOB文のTIMEパラメタで1分以下の指定を行うと、指定しないものより優先的に処理されます。
例) //ジョブ名 JOB CLASS=A, TIME=1
//ジョブ名 JOB CLASS=A, TIME=(, 30)
- ・ ジョブクラスF, VのCPU時間の省略値は180分です。JOB文のTIMEパラメタで10分以下の指定を行うと、指定しないものより優先的に処理されます。
例) //ジョブ名 JOB CLASS=F, TIME=10
- ・ 表のリージョンサイズ欄で括弧内の数字はSSUの制限値です。SSUの使用については当センターニュースの「システム記憶(SSU)の利用法」を参照してください。
- ・ 上記制限を超えるものは要審査ジョブ(ジョブクラスD)となります。ただし、VP2600の使用可能なリージョンは最大400MBです。詳細は受付(内線2520)までお問い合わせください。

(システム管理掛 内線2518)

3. 要審査ジョブの出力方式の変更(MSP)

従来、要審査ジョブ(ジョブクラスD)の実行結果は、実行終了後自動的にセンターのクローズ室のNLPに出力されていましたが、平成6年1月5日(水)から出力検索の対象とします。実行結果はSORPコマンドやMSOコマンドで出力検索し、一般ジョブと同様な出力/消去等が可能です。

(システム管理掛 内線2518)

4. システム記憶 (SSU) の利用法 (MSP)

センターではM1800, VP2600でシステム記憶 (SSU) を運用しています。SSUは主記憶よりは低速ですが、磁気ディスクと比較すると高速な補助記憶で、かつ、SSU上のデータのアクセスはファイルアクセス回数にはカウントされないといった利点があります。

1) SSUの特徴

- ・一時データセット (VIO/FファイルやSORT作業域) として使用することにより、磁気ディスクと比べて高速に処理でき、また、データ転送のファイルアクセス料金は不要である。
- ・主記憶だけではリージョン不足となっていた配列の大きなFORTRAN77EX/VPジョブが実行できる。ただし、SSU配列はプログラムの書き方によっては主記憶のみを使用する場合に比較して、CPU時間が長くなることがあるので利用に際しては下記を参照されたい。

九州大学大型計算機センター広報 Vol.25, No.3

「VP2600のシステム記憶とその使用法」

- ・データ転送に実I/Oを伴わないため高速にジョブ処理がされ、ターンアラウンドが短縮できる。

2) SSU利用上の注意

- ・M1800 (汎用コンピュータ) の場合
 - (1) SSUを使用できるジョブクラスは 'F'.
 - (2) VIO/FファイルおよびSORTの作業ファイルとして利用できる。
 - (3) SSUの最大使用量は1ジョブあたり100MBまで。
(VIO/FファイルとSORT作業域を併せた合計)
 - (4) SSU上に作成したデータセットはジョブ終了時に消去すること。
 - (5) TSSでは使用できない。
- ・VP2600 (スーパーコンピュータ) の場合
 - (1) SSUを使用できるジョブクラスは 'V'.
 - (2) VIO/Fファイルとして利用できる。
 - (3) FORTRANのSSU配列を利用できる。
 - (4) SSUの最大使用量は1ジョブあたり500MBまで。
(SSU配列とVIO/Fファイルを併せた合計)
 - (5) SSU上に作成したデータセットはジョブ終了時に消去すること。

3) エラーメッセージ

SSU使用のジョブ制御文に誤りがある場合、下記のエラーメッセージが出力されます。

- (1) SSUを利用できないジョブクラスを指定した : SUPPLEMENTAL JCL ERROR CODE=7
- (2) M1800でジョブクラスV, VP2600でジョブクラスFを指定した
: SUPPLEMENTAL JCL ERROR CODE=14
- (3) その他SSU使用のDD文に誤りがあった : SUPPLEMENTAL JCL ERROR CODE=15
SSUの使用量の指定に誤りがあった
SSU上のデータセットに DISP=(NEW,DELETE) 以外を指定した など

4) 使用例

- ・M1800の使用例

- (1) 汎用コンピュータでSSUをVIO/Fファイルとして使用する。

```
//ジョブ名 JOB CLASS=F
// EXEC FORT,STEP=CLG,OPTION='AE'
//FORT.SYSIN DD DSN=ソース-タセット名,DISP=SHR
//GO.SYSIN DD DSN=ターゲット名,DISP=SHR
//GO.FT01F001 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=100M'),DISP=(NEW,DELETE)
```

- (2) 汎用コンピュータSSUをSORT作業ファイルとして使用する。

```
//ジョブ名 JOB CLASS=F
// EXEC PGM=SORT
:
//SORTWK01 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=50M'),DISP=(NEW,DELETE)
//SORTWK02 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=50M'),DISP=(NEW,DELETE)
```

・VP2600の使用例

- (1) スーパーコンピュータでFORTRANのSSU配列として使用する。

```
//ジョブ名 JOB CLASS=V
// EXEC FORT,STEP=CLG,OPTION='SSU(共通プログラム名)',VP=YES
//FORT.SYSIN DD DSN=ソース-タセット名,DISP=SHR
//GO.SYSIN DD DSN=ターゲット名,DISP=SHR
//GO.SSARRAY DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=500M'),DISP=(NEW,DELETE)
```

- (2) スーパーコンピュータでSSUをVIO/Fファイルとして使用する。

```
//ジョブ名 JOB CLASS=V
// EXEC FORT,STEP=CLG,VP=YES
//FORT.SYSIN DD DSN=ソース-タセット名,DISP=SHR
//GO.SYSIN DD DSN=ターゲット名,DISP=SHR
//GO.FT01F001 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=200M'),DISP=(NEW,DELETE)
```

- (3) スーパーコンピュータでSSUをSSU配列とVIO/Fファイルで使用する。

```
//ジョブ名 JOB CLASS=V
// EXEC FORT,STEP=CLG,OPTION='SSU(共通プログラム名)',VP=YES
//FORT.SYSIN DD DSN=ソース-タセット名,DISP=SHR
//GO.SYSIN DD DSN=ターゲット名,DISP=SHR
//GO.FT01F001 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=200M'),DISP=(NEW,DELETE)
//GO.SSARRAY DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=300M'),DISP=(NEW,DELETE)
```

- (4) スーパーコンピュータでMARC (汎用構造解析プログラム)の外部ファイルとしてSSUを使用する。

```
//ジョブ名 JOB CLASS=V
// EXEC MARCGO,VREGION=50
//FT03F001 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=5M'),DISP=(NEW,DELETE)
//FT11F001 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=5M'),DISP=(NEW,DELETE)
//FT12F001 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=5M'),DISP=(NEW,DELETE)
//FT13F001 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=5M'),DISP=(NEW,DELETE)
//FT14F001 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=10M'),DISP=(NEW,DELETE)
//FT15F001 DD UNIT=SSU,SUBSYS=(VPCS,'SPACE=5M'),DISP=(NEW,DELETE)
```

(システム管理掛 内線2518)

5. スーパーコンピュータのキュー制限値の変更 (UXP)

平成6年1月5日(水)から、スーパーコンピュータ(VP2600)UXPのキュー制限値を下記のように変更します。

- ・キューvsのリージョンサイズを10MBから8MBに縮小。
- ・キューvlのリージョンサイズを50MBから56MBに拡大。

スーパーコンピュータのキュー制限値

キュー	CPU時間	リージョン	多重度
vs	10分	8MB	1
vl	60分	56MB	1

参考文献

- 「1」「Unix環境でスーパーコンピューティングをする人のためのガイド」 佐藤周行、九州大学大型計算機センター広報、Vol.26, No.4, pp452-484, 1993.

(システム管理掛 内線2518)

6. 学術情報ネットワークによるサービスの一時停止のお知らせ

学術情報ネットワークの通信回線構成変更のため、これによる大学間コンピュータネットワーク及びMHSメールシステムを下記のとおり停止します。

記

期間：平成5年12月18日(土) 0:00から

12月22日(水) 17:00まで

(但し、22日 9:00より順次運用を開始します)

(ネットワーク掛 内線2543)

7. 「オンライン・データベース利用ガイド(第13版)」発行のお知らせ

このたび「オンライン・データベース利用ガイド(第13版)」が発行されました。

7大学の全国共同利用大型計算機センターおよび学術情報センターでは、それぞれデータベースのオンラインサービスを行っており、利用者は交換回線(電話)あるいはコンピュータ・ネットワークなどを介して手近な端末からどのセンターのデータベースでも利用できるようになっていきます。この利用ガイドは、各センターのデータベース・サービスの概略と簡単な利用法について解説したものです。

ご希望の方は、各連絡所を経由して共同利用掛までお申し込みください。

(共同利用掛 内線2515)